

第3四半期の純利益は22億ドル、希薄化後1株当たり利益は1.52ドルと公表

- 第3四半期の税引き後営業利益は23%増の17億ドル、希薄化後1株当たりでは1.21ドル
- 2014年第3四半期の保険事業の税引き前営業利益は、14%増の26億ドル
- 2014年第2四半期には約15億ドル、年初来では34億ドルの株式を買い戻し
- 2014年10月31日に自社株買い戻し枠15億ドルが追加承認
- 2014年第3四半期に保険子会社が親会社AIGに支払った現金および満期固定証券での配当ならびに借入返済は計25億ドル

2014年11月3日(ニューヨーク発):アメリカン・インターナショナル・グループ・インク(ニューヨーク証券取引所銘柄:AIG)(「AIG」)は、本日、2014年第3四半期の純利益が前年同期からわずかに増加して22億ドルになったことを公表しました。2014年第3四半期の税引き後営業利益は、前年同期の14億ドルから増加して17億ドルとなりました。

2014年第3四半期の希薄化後1株当たり利益は1.52ドルとなり、これに対して2013年第3四半期は1.46ドルでした。2014年第3四半期の希薄化後1株当たり税引き後営業利益は、前年同期の0.96ドルから増加して1.21ドルとなりました。

AIG社長兼CEOのピーター・ハンコックは、以下のように述べました。「AIGの前進の先頭に立ち、すべての関係者のために働く能力を足掛かりにしていけるのを楽しみにしています。新たな経営体制がチームをまとめています。このチームはスキルと経験を備え、戦略を実行して世界中の顧客のために働くことを約束しています。さらに私たちは、成長、収益性、リスクのバランスを取ることへのアプローチで規律を守っており、引き続き、業界で最も優れた財務力を維持することに力を入れています。

第3四半期の業績は底堅く、その要因となったのは各事業での着実なパフォーマンスです。どの四半期もトレンドではありませんが、私たちがリスク調整後の利益を重視していることは、保険事故年度の損害率の改善、ネット・スプレッドの緩やかな縮小、継続的な資本管理など様々な指標に表れています。第3四半期から10月初めまでに、AIG普通株式15億ドルを買い戻し、直接投資事業(DIB)を除き、40億ドルを超える負債管理を完了させました。資本ポジションがしっかりしており、事業の見通しが良好なことから、取締役会は15億ドルの株式買い戻しを追加承認しました。」

資本および流動性

- 2014年9月30日現在、AIGの株主資本は合計で1,086億ドルとなりました。
- 1株当たりブック・バリューは前年同期比15%増の77.35ドルになりました。その他の包括利益累計額(AOCI)および繰延税金資産(DTA)を除く1株当たりブック・バリューは、15%増の58.11ドルでした。
- 2014年第3四半期には、AIG普通株式2,480万株を買い戻しました。これには、2014年第2四半期に執行した株式買戻契約の決済にあたって2014年7月に受け渡された170万株が含まれています。また、2014年9月に執行された6億9,200万ドルの株式買戻契約に準拠した約880万株の初回受渡分も含まれており、これは2014年10月に約390万株がAIGに受け渡されて決済されたものです。
- 各種保険事業部門が2014年第3四半期に親会社AIGに支払った納税分担額は3.14億ドルで、年初来累計は11億ドルにのぼります。

- 2014年第3四半期には、AIGは2019年満期、利率2.300%の債券10億ドル、および2044年満期、利率4.500%の債券15億ドルを発行しました。2014年10月には、2044年満期、利率4.500%の債券を7.5億ドル発行しました。
- 2014年第3四半期には、親会社AIGが発行した、もしくは保証を供与した表面利率が高いハイブリッド債および優先債を、公開買付により計25億ドルの購入価格で買い戻しました。2014年10月には、利率8.175%のハイブリッド債、元本合計16億ドルを買い戻しました。
- 2014年第3四半期には、どちらも直接投資事業(DIB)に割り当てられた資金を原資にして、2016年満期、利率4.875%の債券のうち元本合計7.9億ドル、および2017年満期、利率3.800%の債券のうち元本合計12.5億ドルを繰上償還して、DIBの債務を約20億ドル削減しました。2014年10月には、どちらもDIBに割り当てられた資金を原資にして、2018年満期、利率8.250%の債券のうち元本合計20億ドルを繰上償還し、利率5.450%の中期債のうち元本合計約4.05億ドルを買い戻し、DIBの債務をさらに削減しました。
- 親会社AIGの流動資金は、前期末の185億ドルから2014年9月30日現在は171億ドルに減少しました。そのうち126億ドルは、現金、短期投資、および抵当権が設定されていない満期固定証券でした。

税引き後営業利益

(単位：百万米ドル、ただし1株当たりデータを除く)

	9月30日までの3ヶ月間	
	2014年	2013年
税引き前営業利益(損失)		
保険事業		
AIGプロパティ・カジュアリティ	\$ 1,096	\$ 1,079
AIGライフ・アンド・リタイアメント	1,348	1,144
モーゲージ保証保険	135	43
保険事業合計	2,579	2,266
その他の事業(モーゲージ保証保険を除く)		
直接投資	314	110
グローバル・キャピタル・マーケット	58	29
AerCapの税引き前営業利益における持分	196	-
支払利息	(310)	(334)
全社費用、純額	(280)	(282)
その他、純額	91	(141)
その他の事業合計(モーゲージ保証保険を除く)	69	(618)
統合、消去、その他修正	(9)	61
税引き前営業利益	2,639	1,709
法人税経費	(900)	(307)
非支配的持分(正味実現キャピタル(ゲイン)ロスを除く)	6	19
税引き後営業利益	\$ 1,745	\$ 1,421
希薄化後普通株式1株当たり		
税引き後営業利益	\$ 1.21	\$ 0.96
税引き前営業利益に対する実効税率	34.1 %	18.0 %

別途示されていなければ、以下の各事業セグメントにおける比較はいずれも2013年第3四半期に対するものです。

AIG プロパティ・カジュアリティ

(単位：百万米ドル)

	9月30日までの3ヶ月間		
	2014年	2013年	増減
正味収入保険料	\$ 8,953	\$ 8,660	3 %
正味既経過保険料	8,630	8,427	2
事業損失	(169)	(134)	(26)
正味投資利益	1,265	1,213	4
税引き前営業利益	\$ 1,096	\$ 1,079	2 %
引受に関する比率：			
損害率	67.7	67.3	0.4 ポイント
取得費率	19.4	19.7	(0.3)
一般営業費率	14.9	14.6	0.3
コンバインド・レシオ	102.0	101.6	0.4
保険事故年度の調整済み損害率	61.3	63.7	(2.4)
保険事故年度の調整済みコンバインド・レシオ	95.6	98.0	(2.4)
深刻な損失	2.2	2.5	(0.3) ポイント

AIG プロパティ・カジュアリティの税引き前営業利益は、2%増加して11億ドルとなりました。正味投資利益の増加、コンシューマー・インシュアランス事業の損害の改善、コマーシャル・インシュアランス事業の当保険事故年度の調整済み損害率の低下、深刻な損失の減少の効果は、期首時点支払備金の正味繰入れと異常災害損失が増加したことで、一部相殺されました。AIGの継続的な資本管理重視の一環として、AIG プロパティ・カジュアリティは2014年第3四半期に親会社AIGに8億ドルの現金および満期固定証券で配当を分配しました。

2014年第3四半期のコンバインド・レシオは102.0となり、前年同期から0.4ポイント増加しました。異常災害損失は、前年同期が2.22億ドルであったのに対して、2.84億ドルとなりました。期首時点支払備金（見積り額）の当期末状況（ラン・オフ・リザルト）は正味2.27億ドルの繰入れで、これは主にカジュアリティ事業であったのに対し、前年同期は正味7,000万ドルの繰入れでした。この増加の効果は、コマーシャル・インシュアランス事業の深刻な損失が2,300万ドル減少して1.88億ドルとなったことで、一部相殺されました。2014年第3四半期の取得費率は0.3ポイント減の19.4になりました。この原因は、営業支援業務の人員費の削減にあります。一般営業費率は0.3ポイント増の14.9になりました。これは、テクノロジー関連費用の増加が主な原因でしたが、人員費およびその他営業費用の減少により一部相殺されました。

2014保険事故年度第3四半期の調整済み損害率は、前年同期比2.4ポイント減の61.3になりました。これは、コンシューマー・インシュアランス事業、コマーシャル・インシュアランス事業のファイナンシャル・ラインにおける保険事故年度損害の改善と、深刻な損失の減少によるものです。正味投資利益の増加は、オルタナティブ投資利益が増加したためですが、再投資利回りが満期を迎えた投資または売却した投資の金利を下回ったこと、および公正価値オプションで会計処理される投資に係る利益が減少したことで一部相殺されました。

為替およびロス・センシティブ契約の追加保険料の影響を除くと、2014年第3四半期の正味収入保険料は、前年同期を3%上回りました。2014年第3四半期のコマーシャル・インシュアランス事業およびコンシューマー・インシュアランス事業の正味収入保険料は、それぞれ3%と2%増加しました。コマーシャル・インシュアランス事業は、プロパティおよびファイナンシャル・ラインの新契約の増加により、引き続き恩恵を受けています。コンシューマー・インシュアランス事業は、AIG富士生命と、日本および米国における個人損害保険の増加により、引き続き恩恵を受けていますが、引受規律を守るための米国の保証事業、医療・傷害保険の特定のクラスでの減少により、一部相殺されました。

コマーシャル・インシュアランス事業の引受

(単位：百万米ドル)

	9月30日までの3ヶ月間		
	2014年	2013年	増減
正味収入保険料	\$ 5,496	\$ 5,222	5 %
正味既経過保険料	5,344	5,142	4
事業損失	\$ (54)	\$ (8)	NM %
引受に関する比率：			
損害率	74.3	71.8	2.5 ポイント
取得費率	15.4	15.8	(0.4)
一般営業費率	11.4	12.6	(1.2)
コンバインド・レシオ	101.1	100.2	0.9
保険事故年度の調整済み損害率	64.8	66.2	(1.4)
保険事故年度の調整済みコンバインド・レシオ	91.6	94.6	(3.0) ポイント

コマーシャル・インシュアランス事業のコンバインド・レシオは、0.9ポイント増の101.1になりました。その原因は、2014保険事故年度の調整済み損害率が改善し、支払備金の当期末繰入れと異常災害損失の増加を十分相殺したことにあります。2014保険事故年度第3四半期の調整済み損害率は、1.4ポイント減の64.8になりました。取得費率は0.4ポイント減の15.4になりました。主な原因は、営業支援業務の人件費の減少、および保険料税および支払保証基金等の評価額の減少にあります。一般営業費率は1.2ポイント減の11.4になりました。これは、人件費およびその他営業費用が減少したものの、先述のテクノロジー関連費用の増加により一部相殺されたことが主な原因でした。

コンシューマー・インシュアランス事業の引受

(単位：百万米ドル)

	9月30日までの3ヶ月間		
	2014年	2013年	増減
正味収入保険料	\$ 3,454	\$ 3,441	- %
正味既経過保険料	3,271	3,270	-
事業利益	\$ 40	\$ 4	NM %
引受に関する比率：			
損害率	55.3	58.8	(3.5) ポイント
取得費率	26.1	26.1	-
一般営業費率	17.4	15.0	2.4
コンバインド・レシオ	98.8	99.9	(1.1)
保険事故年度の調整済み損害率	55.0	58.5	(3.5)
保険事故年度の調整済みコンバインド・レシオ	98.5	99.6	(1.1) ポイント

コンシューマー・インシュアランス事業のコンバインド・レシオは、損害率の低下により、1.1ポイント減の98.8になりました。損害率、2014保険事故年度の調整済み損害率はいずれも3.5ポイント減少して、それぞれ55.3、55.0になりました。これは、日本の自動車保険事業の料率と請求の改善、および米国の保証事業の料率と補償内容の変更によるものです。一般営業費率は、2.4ポイント増となりました。その主な原因は、AIGプロパティ・カジュアリティの日本法人に関して現在も進行中の統合準備、および的を絞った成長分野への投資に伴い費用が増加したためですが、人件費およびその他営業費用の減少により、一部相殺されました。

AIG ライフ・アンド・リタイヤメント

(単位：百万米ドル)

	9月30日までの3ヶ月間		
	2014年	2013年	増減
収入保険料および預かり資産	\$ 9,662	\$ 8,422	15 %
正味投資利益	2,614	2,467	6
税引き前営業利益			
リテール・セグメント	803	846	(5)
機関投資家セグメント	545	298	83
税引き前営業利益合計	1,348	1,144	18
運用資産	\$ 333,978	\$ 304,399	10 %

AIG ライフ・アンド・リタイヤメントの2014年第3四半期の税引き前営業利益は、前年同期比18%増加して13億ドルでした。これは、運用資産の拡大に伴う手数料収入の増加と、主にオルタナティブ投資が高い利益をあげたことによる正味投資利益の増加を反映したものです。保証利率の積極的管理と資産の増加により、現在の金利環境における投資利回り低下による影響が相殺されました。税引き前営業利益には、保険数理上の仮定の年一回の見直しに関連するDACおよび積立金の正味プラスの調整1.2億ドルが含まれています。これに対して、前年同期比1.18億ドルの正味プラスの調整が含まれていました。AIG ライフ・アンド・リタイヤメントの2014年第3四半期の収入保険料および預かり資産は、97億ドルになりました。これは、リタイヤメント・インカム・ソリューションの変動年金および指数連動型年金の販売高が引き続き増加したこと、ステーブル・バリュー・ラップ契約の預かり資産が拡大していることを反映したものです。低金利環境の持続と個人向けミューチュアルファンドの販売減を原因とする定額年金の販売高の減少により一部相殺されました。

第3四半期の正味投資利益は、オルタナティブ投資の力強いパフォーマンスと、コールおよび公開買付の利益の増加を反映して、26億ドルに増加しました。低金利環境が続く中でポートフォリオのキャッシュフローの再投資が主な要因となって、基礎投資利回りは前年同期の5.26%から5.11%に低下しました。

運用資産は前年同期比10%増の3,340億ドルになりました。これには、株式市場の上昇によって変額年金およびミューチュアルファンドの運用資産が増加したこと、個人向け変額年金保険からの力強いネットでの資金フローが反映されています。またAIGのステーブル・バリュー・ラップ契約の成長は、運用資産を前年同期比で109億ドル増加させました。

リテール・セグメントの税引き前営業利益は8.03億ドルになりました。これには、主にリタイヤメント・インカム・ソリューションの運用資産の増加による手数料およびスプレッド収入の増加、またオルタナティブ投資の利益の増加が含まれています。リテール・セグメントの税引き前営業利益が前年同期比で減少した主な原因は、保険数理上の仮定の年一回の見直しと更新で、2014年第3四半期には正味プラスの7,100万ドルの調整となりました。これに対して、前年同期には正味プラスの1.98億ドルの調整でした。

機関投資家セグメントの税引き前営業利益は、5.45億ドルになりました。これは、手数料収入の増加、オルタナティブ投資の利益の増加、さらに保険数理上の仮定の年一回の見直し、更新に関連する正味プラスの4,900万ドルの調整によるものです。これに対して、前年同期には仮定の更新によって正味マイナスの8,000万ドルの調整がありました。

2014年第3四半期にAIG ライフ・アンド・リタイヤメントは、親会社AIGに合計24億ドルの配当を宣言し、借入を返済しました。このうち17億ドルは、第3四半期に親会社AIGに現金で支払われ、残りの6.35億ドルは、2014年10月に現金および固定満期証券で親会社AIGに分配されました。これらの配当の支払いには、訴訟和解金約4.65億ドルの収入が含まれています。

モーゲージ保証保険

(単位：百万米ドル)

	9月30日までの3ヶ月間		
	2014年	2013年	増減
第一抵当権付国内保険契約の新規引受け	\$ 12,643	\$ 14,230	(11) %
正味収入保険料	271	272	-
正味既経過保険料	227	204	11
事業利益	100	11	NM
正味投資利益	35	32	9
税引き前営業利益	\$ 135	\$ 43	214 %

ユナイテッド・ギャランティ・コーポレーション (UGC) は、前年同期の 4,300 万ドルに対して、2014 年第 3 四半期には 1.35 億ドルの税引き前営業利益を計上しました。これは、第一抵当権付契約の請求の減少、請求調整費用の発生、第一抵当権付契約の正味既経過保険料の増加によるものです。当四半期の損害が減少したのは、期首時点支払備金（見積り額）の当期末状況（ラン・オフ・リザルト）における 600 万ドルの戻入れによるもので、これに対して前年同期は、3,400 万ドルの繰入れでした。また新規の債務不履行の減少、救済率の上昇も要因になりました。第一抵当権付契約の正味収入保険料の増加は、主に持続率の上昇によるものです。

正味収入保険料は 2.71 億ドルで、前年同期と同水準でした。国内第一抵当権付保険契約の新規引受け（保険付き融資元本）は、11%減少して 126 億ドルとなりました。その要因は、借り換え活動による住宅取得向けオリジネーションが減少したことです。新規契約の平均 FICO スコアは 750、平均借入金比率は 92%で高い質を保っていました。

その他の事業

AIG のその他の事業（モーゲージ保証保険を除く）の 2014 年第 3 四半期の税引き前営業利益は、前年同期の 6.18 億ドルの損失に対して、6,900 万ドルの利益となりました。この改善は主に、資産価格上昇と、AIG の AerCap Holdings N.V.株式への投資の利益を要因とする DIB の業績を反映しています。

カンファレンス・コール

AIG は、2014 年 11 月 4 日火曜日午前 8 時（米東部時間）より、カンファレンス・コールを開催し、当四半期業績についてのレビューを行います。このカンファレンス・コールは一般に公開され、ウェブキャスト (<http://www.aig.com/>) でリアルタイムで聞くことができ、終了後に再生することも可能です。

#####

AIG の補足財務情報は、ウェブサイト (<http://www.aig.com/>) の投資家向けセクションでご覧いただけます。

カンファレンス・コール（カンファレンス・コールのプレゼンテーション資料を含みます）、業績リリース、補足財務情報には、1995 年米国私的証券訴訟改革法の定義における「将来予測情報」にあたる可能性がある予測、目標、仮定および見解が含まれている場合があります。これらの予測、目標、仮定および見解は過去の事実ではなく、将来の出来事に関する AIG の考えを示しているに過ぎませんが、その多くは本質的に不確実で AIG が制御できないものです。これらの予測、目標、仮定および見解には、「考える」、「予想する」、「期待する」、「意図する」、「計画する」、「みなす」、「目標とする」、「見積もる」などの言葉が前後にくる、あるいは含まれる記述が含まれます。これらの予測、目標、仮定および見解には以下のものが含まれます。インターナショナル・リース・ファイナンス・コーポレーション (ILFC) に対する AIG 持分の現金化（これには ILFC に対する持分の売却が完了しているかどうか、完了している場合には、かかる売却の時期と最終的な条件が含まれます。）、サブプライム・モーゲージ、モノライン保険会社、住宅用および商業用不動産市場、州債および地方債の発行体、ソブリン債の発行体に対する AIG のエクスポージャー、欧州の政府および金融機関に対する AIG のエクスポージャー、AIG のリスク管理戦略、AIG による配置可能な資本の創出、AIG の株主資本利益率および 1 株当たり利益、また正味投資利益の増加、資本の効率的な管理、コスト削減に関する AIG の戦略、また顧客維持、成長、商品開発、市場での地位、業績、引当金に関する

AIG の戦略、そして AIG 子会社の収入およびコンバインド・レシオなどを考慮に入れることがあります。AIG の実際の業績ならびに財務状況が、これらの見解、目標、仮定および記述で示されていた予測から場合によっては大きく逸脱する可能性があります。AIG の実際の業績が、特定の予測、目標、仮定や見解の値から場合によっては大きく逸脱し得る要因には、市場環境の変化、天災および人災による異常災害の発生、重要な訴訟、銀行以外のシステム上重要な金融機関、およびグローバルなシステム上重要な保険会社として、AIG が対象となる新たな規制の枠組みの導入時期および適用要件、AIG の投資ポートフォリオにおける集中、格付け機関の動向、損害保険の引受けおよび保険債務に関する判断、繰延税金資産の認識に関する判断、ならびに 2014 年 9 月 30 日に終了した四半期に関するフォーム 10-Q による AIG 四半期報告書パート I 項目 2 (「経営陣による財務状況と業績の検討および分析 (MD&A)」)、2014 年 3 月 31 日および 2014 年 6 月 30 日に終了した四半期に関するフォーム 10-Q による AIG 四半期報告書パート I 項目 2 (「MD&A」)、および 2013 年 12 月 31 日に終了した年度に関するフォーム 10-K による AIG 年次報告書パート I 項目 1A (「リスク要因」) とパート II 項目 7 (「MD&A」) でとりあげられている事項などがあります。AIG は、書面または口頭にかかわらず、見解、目標、仮定やその他の記述を更新・変更する義務を負わないとともに、その義務を明確に否認します。こうした更新や変更は、新しい情報、将来の事象その他の結果として、随時生じる可能性があります。

#####

規定 G に関する注釈

財務ハイライトを含めた本プレスリリースでは、最も意味があり、最も良く表し、透明性が高いと考えられる方法で財務状態および業績を示しています。一部の数値には、証券取引委員会の規則および規制による「非 GAAP 型の財務数値」が用いられています。GAAP とは「米国において一般に認められた会計原則」のことです。AIG が表示する非 GAAP 型の財務数値を、他の企業が公表している同様の名称の数値と比較することはできません。本リリース中の関連した表、あるいは AIG のウェブサイト (www.aig.com) の投資家向けセクションで閲覧可能な 2014 年第 3 四半期補足財務情報には、非 GAAP 型の財務数値から規定 G に基づく最も GAAP に類似した数値への調整が示されています。

その他の包括利益 (損失) 累計額 (AOCI) を除く普通株式 1 株当たりブック・バリュー、および AOCI ならびに DTA を除く普通株式 1 株当たりブック・バリューは、AIG の 1 株当たりの純資産額を示すために用いられています。AOCI を除く普通株式 1 株当たりブック・バリュー、および AOCI ならびに DTA を除く普通株式 1 株当たりブック・バリューは、売却可能有価証券ポートフォリオの公正価値や外貨換算調整、また AOCI ならびに DTA を除く普通株式 1 株当たりブック・バリューの場合は繰延税金資産に帰する米国税金など期間によって大幅に変動することがある非現金項目の影響を除外しているため、投資家にとって有益な指標だと考えます。AOCI ならびに DTA を除く普通株式 1 株当たりブック・バリューは、AOCI ならびに DTA を除く株主資本合計を、発行済み普通株式数で除したものです。

AIG は、継続事業の基本的な収益性と、AIG および事業セグメントのトレンドをより良く理解することができるため、以下の業績指標を用いています。これらによって競合する保険会社との比較がより有意義なものになると考えています。

AIG に帰属する税引き後営業利益 (損失) は、AIG に帰属する純利益 (損失) から以下の項目を除きます。非継続事業の利益 (損失)、事業売却の利益 (損失) (ILFC 売却益、ならびに ILFC 取得に伴い AerCap が負担する特定の取得後取引費用、AerCap の維持権資産の費用計上の残存リース期間中と関連する航空機の残りの経済的耐用期間中との差異、および関連する税効果の差異を含む)、主に不確実な税務ポジションの変更に関連する従来の税務調整およびその他の税務調整、主に「過去の危機に関する問題」についての訴訟損失引当金 (和解金)、繰延税金評価引当金の (戻入れ) 繰入れ、生前給付債務をヘッジするための AIG ライフ・アンド・リタイアメントの満期固定債券の公正価値の変動 (支払利息を除く)、給付積立金と正味実現キャピタル・ゲイン (ロス) に関連する繰延保険獲得費用 (DAC)、獲得事業価値 (VOBA)、販売促進資産 (SIA) の変動、AIG プロパティ・カジュアリティのその他の (収入) 費用-純額、債務消滅 (益) 損、正味実現キャピタル・(ゲイン) ロス、および正味実現キャピタル・(ゲイン) ロスを除く要件を満たしていないデリバティブ・ヘッジ取引。「過去の危機に関する問題」には、2008 年 9 月の流動性危機につながる出来事、ならびにこの結果生じた出来事に関連する有利な、および不利な和解、またかかる法的事項に関連する原告として AIG が負担した弁護士費用が含まれます。AIG に帰属する純利益の AIG に帰属する税引き後営業利益への調整については、10 ページを参照してください。

AIG プロパティ・カジュアリティの税引き前営業利益 (損失) には、事業利益 (損失)、正味投資利益が含まれますが、正味実現キャピタル (ゲイン) ロス、その他 (収入) 費用 - 純額および上述の過去の危機に関する問題に関連する訴訟和解金は含まれません。事業利益 (損失) は、正味既経過保険料から、請求および請求調整費用、取得費用、一般営業費を差し引いたものです。

AIG プロパティ・カジュアリティは、ほとんどの損害保険会社と同様に、引受の成果を示す指標として損害率、経費率、コンバインド・レシオを用いています。これらの比率は相対的な指標で、正味既経過保険料 100 ドルに対す

る請求および請求調整費用と負担するその他引受費用を示しています。コンバインド・レシオが 100 を下回る場合は事業利益、100 を超える場合は事業損失を示します。訴訟活動の程度と同様に、引受環境は国や商品によって異なり、そのすべてがこれらの比率に影響を及ぼします。さらに投資利益、現地税、資本コスト、規制、商品の種類、競争が、料率、その結果、事業利益および関連比率に反映されているように収益性に影響を及ぼします。

AIG プロパティ・カジュアリティの保険事故年度の調整済み損害率、ならびに調整済みコンバインド・レシオはいずれも、異常災害損失、関連する復活保険料、前年の動向、保険料調整の控除、準備金の割引による影響を除外したものです。異常災害損失はほとんどが天候や地震に関する出来事で、AIG プロパティ・カジュアリティへの正味での影響はそれぞれ 1,000 万ドルを超えました。

AIG ライフ・アンド・リタイアメントの税引き前営業利益（損失）は、税引き前利益（損失）から次の項目を除外したものです。これは、上述の過去の危機に関する問題に関連する訴訟和解金、生前給付債務をヘッジするための満期固定証券の公正価値の変動（支払利息を除く）、正味実現（利益）損失、給付積立金の変動、正味実現利益（損失）に関連する DAC、VOBA、SIA です。

AIG ライフ・アンド・リタイアメントの収入保険料、預かり資産には、従来型生命保険契約での直接の、および想定される受取額、団体給付契約、生存依存型年金の預かり資産、およびユニバーサル生命保険、投資型年金契約、ミューチュアルファンドの預かり資産が含まれます。

その他の事業の税引き前営業利益（損失）は、税引き前利益（損失）から次の項目を除外したものです。上述の過去の危機に関する問題についての特定の訴訟損失引当金（和解金）、債務消滅（益）損、正味実現キャピタル（ゲイン）ロス、給付積立金と正味実現キャピタル・ゲイン（ロス）に関連する DAC、VOBA、SIA の変動、航空機リースなどの事業売却の利益（損失）、事業売却の純（利益）損失（ILFC 売却益、ならびに ILFC 取得に伴い AerCap が負担する特定の取得後取引費用、AerCap の維持権資産の費用計上の残存リース期間中と関連する航空機の残りの経済的耐用期間中との差異、および AerCap の所得税の当社負担分を含む）。

非継続事業の業績は、これらすべての数値から除外されています。

#####

AIG グループは、世界の保険業界のリーダーであり、130 以上の国と地域で顧客にサービスを提供している。AIG グループ各社は、世界最大級のネットワークを通して個人・法人のお客様に損害保険商品・サービスを提供している。この他、米国においては生命保険事業、リタイアメント・サービスの事業も展開している。持株会社 AIG, Inc. はニューヨークおよび東京の各証券取引所に上場している。

AIG, Inc.の追加情報については www.aig.com | You Tube :www.youtube.com/aig | Twitter :@ AIGInsurance | LinkedIn :<http://www.linkedin.com/company/aig> |を参照されたい。

AIG とは、AIG, Inc.傘下の全世界の損害保険、生命保険、リタイアメント・サービス事業ならびに一般的な保険事業のマーケティング名である。より詳細な情報については当社のホームページ (www.aig.com) を参照されたい。全ての商品およびサービスは AIG, Inc.傘下の子会社または関連会社により引き受けまたは提供されている。これら商品およびサービスは一部の国では利用できない可能性があり、実際の契約に準拠する。保険以外の商品・サービスは、独立した第三者によって提供されることがある。一部の損害保険の補償については、サープラス・ラインの保険会社によって提供される可能性がある。サープラス・ラインの保険会社は、一般的に米国州政府保証基金に加入しないため、当該基金による保証は行われぬ。

アメリカン・インターナショナル・グループ・インク財務ハイライト*

(単位：百万米ドル、ただし1株当たりの情報を除く)

	9月30日までの3ヶ月間			9月30日までの9ヶ月間		
	2014年	2013年	増減(%)	2014年	2013年	増減(%)
AIG プロパティ・カジュアリティの事業：						
正味収入保険料	\$ 8,953	\$ 8,660	3.4 %	\$ 26,500	\$ 26,360	0.5 %
正味既経過保険料	8,630	8,427	2.4	25,391	25,332	0.2
請求および請求調整費用	5,839	5,669	3.0	16,871	16,761	0.7
取得費用	1,674	1,664	0.6	4,967	5,023	(1.1)
一般営業費用	1,286	1,228	4.7	3,718	3,673	1.2
事業損失	(169)	(134)	(26.1)	(165)	(125)	(32.0)
正味投資利益	1,265	1,213	4.3	3,775	3,847	(1.9)
税引き前営業利益	1,096	1,079	1.6	3,610	3,722	(3.0)
正味実現キャピタル・ゲイン	92	50	84.0	361	213	69.5
訴訟和解金	19	-	NM	27	3	NM
その他の利益 (費用) - 純額	-	(3)	NM	8	7	14.3
税引き前利益	\$ 1,207	\$ 1,126	7.2	\$ 4,006	\$ 3,945	1.5
損害率	67.7	67.3		66.4	66.2	
取得費率	19.4	19.7		19.6	19.8	
一般営業費率	14.9	14.6		14.6	14.5	
コンバインド・レシオ	102.0	101.6		100.6	100.5	
AIG ライフ・アンド・リタイアメントの事業：						
収入保険料の売上	\$ 599	\$ 721	(16.9)	\$ 1,896	\$ 1,990	(4.7)
保険証券発行手数料	743	645	15.2	2,136	1,883	13.4
正味投資利益	2,614	2,467	6.0	7,992	7,981	0.1
その他の利益	502	443	13.3	1,460	1,255	16.3
収入合計	4,458	4,276	4.3	13,484	13,109	2.9
給付および費用	3,110	3,132	(0.7)	9,539	9,420	1.3
税引き前営業利益	1,348	1,144	17.8	3,945	3,689	6.9
訴訟和解金	479	-	NM	521	467	11.6
生前給付債務をヘッジするための満期固定証券の 公正価値の変動、支払利息を除く	32	(30)	NM	162	(128)	NM
給付金積立金の変動と、正味実現キャピタル・ゲイン (ロス)に関連する DAC、VOBA、SIA	(33)	(271)	87.8	(44)	(1,482)	97.0
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス)	105	398	(73.6)	(172)	1,984	NM
税引き前利益	\$ 1,931	\$ 1,241	55.6	\$ 4,412	\$ 4,530	(2.6)
その他の事業、税引き前営業利益 (損失)	204	(575)	NM	398	(497)	NM
法定責任準備金	(17)	(400)	95.8	(546)	(425)	(28.5)
訴訟和解金	155	-	NM	143	48	197.9
債務消滅における損失	(742)	(81)	NM	(1,014)	(459)	(120.9)
給付金積立金の変動と、正味実現利益 (損益) に関連 する DAC、VOBA、SIA	-	-	NM	(13)	-	NM
航空機リース	-	(1)	NM	17	60	(71.7)
事業売却の純利益	18	-	NM	2,168	(47)	NM
正味実現キャピタル・ゲイン (ロス)	126	(166)	NM	(69)	(33)	(109.1)
税引き前損失	(256)	(1,223)	79.1	1,084	(1,353)	NM
税引き前営業利益 (損失) 関連の会社間連結・消去調整	(9)	64	NM	28	117	(76.1)
営業外利益 (正味実現キャピタル・ゲイン (ロス)を含む) 関連の会社間連結・消去調整	146	(30)	NM	242	(21)	NM
継続事業の税引き前利益	3,019	1,178	156.3	9,772	7,218	35.4
法人税経費 (利益)	820	(970)	NM	2,908	172	NM
継続事業の純利益	2,199	2,148	2.4	6,864	7,046	(2.6)
非継続事業の利益 (損失)、税引き後	2	(18)	NM	(15)	73	NM
純利益	2,201	2,130	3.3	6,849	7,119	(3.8)
控除：非支配的持分に帰属する継続事業の純利益：	9	(40)		(25)	12	NM
AIG に帰属する純利益	\$ 2,192	\$ 2,170	1.0 %	\$ 6,874	\$ 7,107	(3.3) %

次のページの注記を参照のこと。

財務ハイライト (続き)

	9月30日までの3ヶ月間			9月30日までの9ヶ月間		
	2014年	2013年	増減(%)	2014年	2013年	増減(%)
AIG に帰属する純利益	\$ 2,192	\$ 2,170	1.0 %	\$ 6,874	\$ 7,107	(3.3) %
AIG に帰属する税引き後営業利益の調整 (税引き後の値)						
非継続事業の(利益)損失	(2)	18	NM	15	(73)	NM
事業売却の(利益)損失 (ILFC 売却益を含む)	(42)	24	NM	(1,453)	20	NM
不確実な税務ポジションおよびその他の税金の調整	(25)	36	NM	(14)	726	NM
過去の危機に関する問題についての訴訟損失引当金(和解金)	(569)	260	NM	(250)	(61)	(309.8)
繰延税金資産評価引当金減算	(21)	(1,159)	98.2	(161)	(2,697)	94.0
生前給付債務をヘッジするための AIG ライフ・アンド・リタイアメントの満期固定証券の公正価値の変動、支払利息を除く	(21)	19	NM	(105)	83	NM
給付積立金の増減と、正味実現キャピタル・ゲイン(ロス)に関連する DAC、VOBA、SIA	21	176	(88.1)	37	1,065	(96.5)
負債の償却損	482	52	NM	659	298	121.1
正味実現キャピタル・ゲイン	(270)	(175)	(54.3)	(243)	(1,410)	82.8
AIG に帰属する税引き後営業利益	\$ 1,745	\$ 1,421	22.8	\$ 5,359	\$ 5,058	6.0
普通株式 1 株当たり利益 (損失) :						
基本						
継続事業の利益	\$ 1.54	\$ 1.48	4.1	\$ 4.78	\$ 4.77	0.2
非継続事業の利益 (損失)	-	(0.01)	NM	(0.01)	0.05	NM
AIG に帰属する純利益	\$ 1.54	\$ 1.47	4.8	\$ 4.77	\$ 4.82	(1.0)
希薄化後						
継続事業の利益	\$ 1.52	\$ 1.47	3.4	\$ 4.72	\$ 4.75	(0.6)
非継続事業の利益 (損失)	-	(0.01)	NM	(0.01)	0.05	NM
AIG に帰属する純利益	\$ 1.52	\$ 1.46	4.1	\$ 4.71	\$ 4.80	(1.9)
AIG の希薄化後株式に帰属する税引き後営業利益	\$ 1.21	\$ 0.96	26.0 %	\$ 3.67	\$ 3.41	7.6
加重平均発行済み株式数 :						
基本 :	1,419.2	1,475.1		1,440.1	1,476.0	
希薄化後 :	1,442.1	1,485.3		1,459.5	1,481.4	
普通株式 1 株当たりブック・バリュー(a)				\$ 77.35	\$ 67.10	15.3
その他の包括利益累計額を除く普通株式 1 株当たりブック・バリュー (b)				\$ 69.28	\$ 62.68	10.5
その他の包括利益累計額および DTA を除く普通株式 1 株当たりブック・バリュー (c)				58.11	50.47	15.1 %
株主資本利益率 (d)	8.1%	8.8%		8.7%	9.6%	
その他の包括利益累計額を除く株主資本利益率一税引き後営業利益 (e)	7.2%	6.2%		7.5%	7.6%	
その他の包括利益累計額および DTA を除く株主資本利益率一税引き後営業利益 (f)	8.6%	7.8%		9.0%	9.5%	

財務ハイライト特記事項

* 規定 G に従った調整を含んでいます。

- AIG 株主資本合計を発行済み普通株式数で割ったものを示しています。
- その他の包括利益累計額 (AOCI) を除く AIG 株主資本合計を発行済み普通株式で割ったものを示しています。
- その他の包括利益累計額 (AOCI) および DTA を除く AIG 株主資本合計を発行済み普通株式で割ったものを示しています。
- AIG に帰属する実際または年間の純利益 (損失) を、AIG 平均株主資本で割って算出しています。株主資本には繰延税金資産を含みます。
- AIG に帰属する実際または年間の税引き後営業利益を、その他の包括利益累計額 (AOCI) を除く AIG 平均株主資本で割って算出しています。株主資本には DTA を含みます。
- AIG に帰属する実際または年間の税引き後営業利益を、その他の包括利益累計額 (AOCI) および DTA を除く AIG 平均株主資本で割って算出しています。